

45. 地詰に及ぼす温度の影響について (第2報)

福島県立会津短大 佐川 澄子

1. 被服構成に先立って、布地を地詰しておくことは縫製・着装・被服整理上狂いをなくす第1条件である。そこで半合成、合成及び混紡せんい15種を選び、温水浸漬やアイロンがけを行い、どのような地詰まりを生ずるかを比較研究したので報告する。

2. 試料の厚さ、平面重、比重、気孔容積、密度について測定し、経緯 14×14 に裁断、更に 10×10 に糸標をして、必要枚数を整える。水温を 10°C から 15°C の差で7段階とし、60分浸漬、引上後風乾して、経緯それぞれの地詰率を測定する。同型自動アイロン3個を温度指示を一定にして通電、底面に表面温度計を用いて測定し、アイロンの個々の傾向を知る。次に各せんいの中から一種類宛選んで5種類とし、時間差をおいてアイロンをあて布地の地詰傾向を理解する。更に温度指示毎にアイロン

かけを行い、地詰率の変化についてグラフ化する。さきに浸漬実験した試料を用いて、適温にしてアイロンがけをし、総合地詰率を測定する。特徴ある試料については顕微鏡観察を行う。

3. 天然、再生せんいに較べて甚しく異なる点は、一般的に地詰率低く、アクリル系のものは逆に伸びる傾向がある。アイロン温度は綿指示位にして行うことが地詰の目的を達するものと確認された。